



今月の話題

- 研修生訪日について
- IISEE 講堂における佐竹先生による対面講義(12月8日)の実施
- 2021年アジア地震学会(オンライン、2021年8月21日から27日開催)
- 2017年中南米耐震建築コース元研修生の活動について
- 政策研究院大学での防災政策に関する講義
- 谷岡先生による遠隔IISEEセミナー(12月15日)の開催報告
- 人事異動の紹介
- 新任の挨拶

研修データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

研修生訪日について

国際地震工学センター長 小豆畑 達哉、管理室長 山田 高広

新型コロナウイルスの世界的感染という厳しい状況の中、若い研究者や技術者を対象とした地震工学通年研修の開講式がリモートで開催(10月2日(水))され、約1年間の研修がスタートし、訪日可能な研修生から順次訪日してきました。

第一陣は、エルサルバドル、チリ、バングラデシュ、マレーシア、東ティモールの7名が訪日し11月16日(月)と11月17日(火)に建築研究所へ通学を開始し、第二陣はインドネシア、ブータンの4名が訪日し12月7日(月)より建築研究所へ通学を開始しました。

通学を開始した研修生は、「リモート講義」と「対面講義」を受講しています。

対面講義のときは、訪日研修生が対面講義となり、訪日出来ない研修生はリモート講義となり、ハイブリッド形式での講義となります。

つくばは12月中旬から寒くなり、また、新型コロナウイルス感染症により研修生は遠くへの外出が出来ない状況にはありますが、研修に励んでいます。研修頑張ってください。

IISEE 講堂における佐竹先生による対面講義(12月8日)の実施

国際地震工学センター 上席研究員 芝崎文一郎、主任研究員 藤井 雄士郎

12月8日に東大地震研究所所長の佐竹健治教授による「津波と地震」という題名の講義が行われました。聴講者は津波防災コース3名及び地震学コース6名でした。6名の研修員がIISEEの講堂で対面講義を受け、3名(ソロモン、フィリピン、トンガ)の研修員が遠隔で講義を受講しました。先生は、2011年東北地震や世界の地震を例に挙げ、津波発生、伝播、津波警報などについて、基本的な概念を説明されました。研修生から、佐竹先生の講義は非常にわかりやすく魅力的であったというコメントがありました。尚、対面講義は、座席間隔を十分に開けるなど、新型コロナ感染拡大防止に留意した上で実施いたしました。

地震データベース

2011年3月11日東北地方
太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)



東京大学地震研究所所長の佐竹健治教授

2021年アジア地震学会(オンライン、2021年8月21日から27日開催)

国際地震工学センター シニアフェロー 横井 俊明

2020年から2021年に延期されたアジア地震学会が、インド地球物理学研究所主催のIAGA-IASPEI 2021(2021年8月21日から27日開催)の枠内で実施されます。新型コロナウイルス感染症の影響により、この会議は、ハイデラバードでの対面ではなく、完全にオンライン・ミーティングとなります。

重要な日付:

1月15日 - 4月15日 アブストラクト提出

1月15日 - 6月30日 早期登録

参加登録料(通常参加者):

早期登録: 175 USD

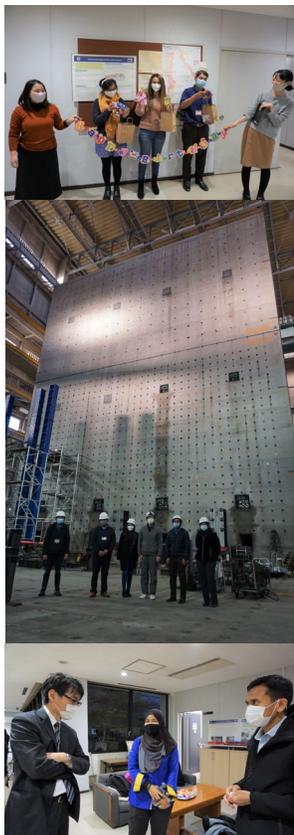
7月1日以降: 225 USD

より詳細な情報は、次のURLを御参照ください:

www.iaga-iaspei-india2021.in

2017年中南米耐震建築コース元研修生の活動について

国際地震工学センター シニアフェロー 横井 俊明



楽しむのは今です

以下の活動報告が、エクアドルのジョルディ・ミーレス教授から IISEE に送られてきました。私達 IISEE のスタッフは、このような元研修生の立派な活動を非常に誇りに思っています。

2017 年に日本で開催された JICA 研修コース「ラテンアメリカの耐震建築

技術の向上と普及」の元研修生が、2020 年 11 月 7 日と 28 日にエクアドルのマナビ工科大学で開催された土木工学科「社会的関心のある住宅」修士課程の学生 70 名を対象としたオンライン研修コースに講師として参加しました。

この研修コースのテーマは、ソーシャルハウジングの建築における各国での経験、欠陥、および地震リスクを低減するために取られた対策に関連しています。

上記 JICA コースの元研修生のジョルディ・ミーレス教授とスターリン・アルシヴァル教授(マナビ工科大学)は主催者として、「ソーシャルハウジングを対象とした耐震建築」と題する講演を行いました。

また、以下の元研修生が各国からオンラインでプレゼンテーションを行いました。

・ベネズエラ:グスターボ・コロネル氏:ラテンアメリカとカリブ海のソーシャルハウジング:耐震性の側面からの展望。

・エルサルバドル:マグダ・カステジャノス氏:エルサルバドルのソーシャルハウジング技術。

・メキシコ:マリア・イザベル・ディアス・ソリス氏:メキシコとラテンアメリカの住宅

・チリ:エドゥアルド・ウルタド氏:チリの焼煉瓦組積造建築物。

・ドミニカ共和国:タミー・ビジャール氏:ドミニカ共和国の非公式の建物。脆弱な住宅の報告。



オンライン研修コースの様子

論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい



メキシコのイザベルさんのプレゼンテーションの様子

上記の JICA 研修コースで得られた経験と友情は、元研修生が得た経験を広めることでラテンアメリカの幅広いセクターに利益をもたらし、今日では該当地域の生活水準とソーシャルハウジングの安全性を向上させるために役立っています。

政策研究院大学での防災政策に関する講義

国際地震工学センター 管理室長 山田 高広

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国での活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

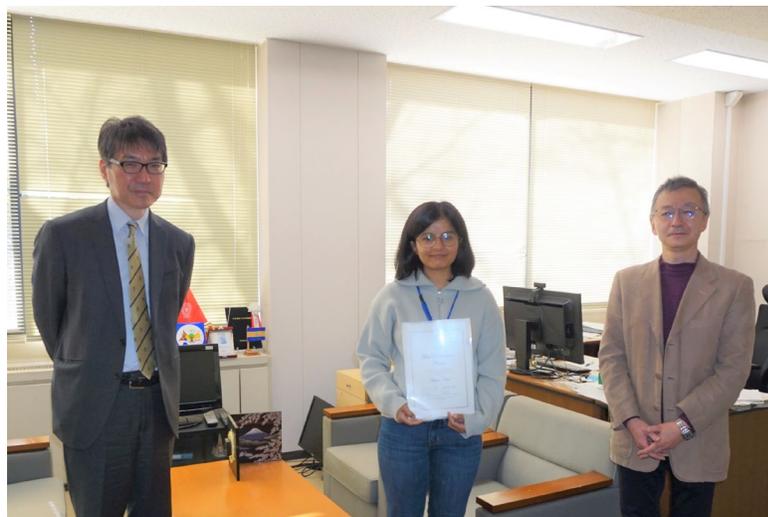
iiseenews@kenken.go.jp
http://iisee.kenken.go.jp

2005 年以来、建築研究所と政策研究院大学(GRIPS)との提携により、国際地震工学研修における通年コースの研修プログラムは、GRIPS の修士課程プログラムとしても認められています。これにより、通年コースの研修生は、GRIPS より修士号(Disaster Management)を取得することが可能となっています。

この修士課程プログラムのため、GRIPS は、2 週間の防災政策に関する特別講義を行っています。この講義には、国際地震工学研修生のみならず、他のコースの日本人学生や留学生も参加しています。

本年は、COVID-19 問題のため遠隔で実施されました。研修生は、11 月 20 日(金)から、12 月 4 日(金)にかけて JICA つくば国際センターの自室から本講義に参加しました。本講義中のセッションにおいて、全ての学生が、自国における災害、災害対策、災害対策と自らの職務の関係について発表することが求められ、また、各自の発表について議論されました。様々な国の災害対策を学び、またお互いを知る貴重な機会となりました。学生同士の投票により、3 名の発表が選ばれ、「最優秀発表賞」が与えられました。3 名のうちの一人は、ブータンからの国際地震工学研修生であるニティアムさんでした。

日本では、まだまだ寒い日が、しばらくの間、続きます。しかしながら、日の入りから日の出までの日中の時間は次第に長くなっていきます。国際地震工学センターが企画するショートミーティングや、日本のお正月の習慣を楽しむことによって気分転換を図り、寒い冬を乗り切ってもらえれば、と願っております。



最優秀発表賞を受賞した、ブータンのニティアムさん(地震学コース)

谷岡先生による遠隔 IISEE セミナー(12 月 15 日)の開催報告

国際地震工学センター 上席研究員 芝崎文一郎、主任研究員 藤井 雄士郎

12 月 15 日に、北海道大学教授の谷岡勇市郎先生による遠隔 IISEE セミナーを津波防災コース現研修員及び帰国研修員を対象に開催しました。講演題名は「津波予測技術に関する最近の研究」Recent Researches on Tsunami Forecasting Technology”で、中米やインドネシアにおける津波早期警報システム

ニュースレターの 配信先変更

IISEE ニュースレターの配信先の変更は、
iiseenews@kenken.go.jp
へご連絡ください。

バックナンバーは
下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

のための震源モデル決定に関する研究成果や、日本におけるSネットの海底水圧計を用いた近地津波警報システムに関する最新の研究成果を紹介されました。リアルタイムでのセミナー参加者は35名で、アジア及び中南米から29名の帰国研修員が参加しました。さらにオンデマンドでのセミナー聴講者は5名程度おりました。セミナー終了後には、芝崎と藤井で最近の津波防災コースの状況を報告し、その後、spatial chatでの交流会を行いました。谷岡先生及び帰国研修員といろいろとお話して交流を深めることができました。IISEEセミナーを遠隔で実施するのは今回が初めての試みでしたが、今後も帰国研修員とIISEEで地震・津波防災に関する国際的なネットワークを構築するために遠隔IISEEセミナーを続けていく予定です。

人事異動の紹介

国際地震工学センター管理室長 山田 高広

9月1日付けで、構造研究グループより中川博人主任研究員が転入され、12月1日付けで構造研究グループより大塚悠里研究員が転入されました。

新任の挨拶

国際地震工学センター 主任研究員 中川 博人

2020年9月1日付けで、国際地震工学センター併任となりました中川博人と申します。歴史ある国際地震工学センターのスタッフの一員になれたことを大変光栄に思っております。これまでは先生や同僚等、多くの関係者に支えられて、地盤振動に関する数値解析、微動・強震観測、模型振動実験等に携わっていました。皆様と一緒に素晴らしい時間を過ごせることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



中川 博人 主任研究員

国際地震工学センター 研究員 大塚 悠里

2020年12月1日付けで、国際地震工学センター(構造研究グループ併任)研究員に着任いたしました大塚悠里と申します。2019年3月に明治大学大学院博士課程を修了し、2019年4月より構造研究グループに勤務しておりました。研究分野は地震時における建築物の応答評価です。また、良好なエネルギー吸収能力を有するRC造梁の開発研究にも携わっていました。至らぬ点もあるかと思いますが、精一杯尽力いたします所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



大塚 悠里 研究員